「論文内容の要約」

1. 題名：

戦後イラクの平和構築におけるジェンダーの主流化

──女性をめぐる米国の政策と社会的影響を中心に──

2. 全体要旨：

本論文は、2003 年イラク戦争後のイラクにおける女性政策の影響を、米国の占領統治下での平和構築における「ジェンダーの主流化」という新たな視角から分析し、イラク女性を取り巻く環境がどのようにしてもたらされたのか、という問いに答えようとしたものである。

「ジェンダーの主流化」とは、近年、国際連合が中心となって提唱した概念である。それは、本論文で取り扱う 2003 年のイラク戦争における米国の姿勢に見られたように、女性の保護や支援をアジェンダとして掲げ、平和構築のためのアプローチの 1 つとして位置付けられる。平和構築におけるジェンダーの平等を目指すこのアプローチは、冷戦終結後の 1990 年代以降、地域紛争の増加に伴い女性の暴力被害が増加したこと、さらに、平和構築活動時に女性が疎外されていることが問題視されたことから、国連をはじめ国際社会で重要性が認められてきた。しかし、「ジェンダー主流化」の一環と見られる女性のアジェンダ化を喧伝した米国主導のイラクにおける平和構築とは、「ジェンダーの主流化」が目指す男女の平等が取り入れられたものではなかった。本論文では、その理由、実態およびその影響を明らかにした。

イラク戦争後のイラクは、ジョージ・ブッシュ大統領による「主要な戦闘の終結」宣言後も紛争状態が続いた。そのなかで米国は、想定外の混乱に見舞われ、女性政策への費用を減らし、治安維持に尽力しなければならなかった。国防総省や国務省は、イラクへの派遣人員はじめ対応措置でイラクでの主導権争いに従事し、現場の最高司令官である連合国暫定当局(CPA: Coalition Provisional Authority)のポール・ブレマー長官は、イラクにいわゆる脱バアス化政策を発し、新生イラクを再生しようと試みるが、しかしながら、女性政策ではその手腕は発揮できなかった。

他方、女性にとっては、生活面での負担は増加し、民主化の象徴とされた 2005 年に始まった選挙では、必ずしも適切な形で自己を主張したものにはならなかった。同時に女性は性的暴力被害の対象および厳格化するイスラーム主義のスンナ派とシーア派の各組織による戒律強要の対象となった。西洋的な価値観を持つ女性として米国から注目を浴びた亡命イラク女性たちは、イラクの宗派および民族の政治的な対立のなかで、その価値観を維持することはできず、新生イラク国家の中では、少数派となった。

「ジェンダーの主流化」という点では、イラク戦争開戦前に発表された女性政策とは裏腹に、女性政策に対する占領統治者米国による積極的な介入はほとんど見られなかった、

もしくは期待したような効果を得られなかったと言える。このように本論文は、米国による女性政策が実施できなかった理由と経緯、また、その女性への社会的影響を明らかにしている。同時に、イラクにおける米国の女性政策を西洋的視点からのみ論じるのではなく、イラクの宗派や部族を考慮することの難しさも示している。

3. 目的と章構成：

本論文は、イラクにおける紛争後の平和構築「ジェンダーの主流化」の視角から分析するが、その目的は 3 つある。第 1 に、イラク戦争後の米国による占領統治および平和構築におけるイラクの要因の影響を検証することにより平和構築の応用に対して当該国の事情に関するインプリケーションを示すことである。第 2 に、イラク戦争およびその後の占領統治政策について、女性を政策アジェンダとして設定したことによる影響を検討するということである。第 3 に、フセイン政権後イラクの社会状況の実態をジェンダーの視点から検証することである。

本研究の構成は以下の通りである。第 1 章では、研究の分析視角である平和構築における「ジェンダーの主流化」の定義、平和構築との中での位置づけ、女性と紛争との結びつきについての議論の発展および展開の経緯を確認する。その上で、イラク戦争後のイラクにおける平和構築をジェンダーという視点からとり上げる研究の意義について論究する。

第 2 章では、政権転換前のフセイン政権におけるジェンダー政策を、イラン・イラク戦争や湾岸戦争、国連経済制裁と関連づけながら見た上で、政権転換前のイラクにおいて女性が社会・経済的にどのような状況に置かれていたのかを確認する。まず、フセイン政権が目指した女性のあるべき姿を、フセイン大統領が女性をテーマにおこなったスピーチと当時の政策とを結びつけながら分析する。同時に、スピーチをもとに、フセイン政権が進めようとしていた「女性の解放」や「女性の社会進出」についても検討する。女性に関する政策を実現する上でフセイン大統領が考えていた阻害要因とは何か、それに対して彼はどのように対応したのかを検証し、イラク社会における女性の社会進出政策導入の難しさの一端を明らかにする。

第 3 章では、米国のイラク戦争および占領統治における女性政策を検証する。女性をイラク戦争の際の重要アジェンダとして位置付けた経緯や、その後の米国の政策の変遷を、主に当時の戦略の中心人物の発言や女性政策のプロジェクトに対する予算配分から分析する。また、占領統治の現地責任者であった CPA のポール・ブレマー長官、ホワイトハウスにおける中心人物であるコンドリーザ・ライス国務長官の回顧録から、ブッシュ政権内での女性政策についての認識、現状認識の双方の違いやその政策への影響を考察する。

第 4 章では、戦後に続いて起きた紛争の構造の変遷から、女性を取り巻く環境の変化を論究する。イラク攻撃後に 2 カ月足らずで「主要な戦闘の終結」がブッシュ大統領によって発表されたが、イラクでは断続的な紛争状態が続いた。紛争に関わるイラク国内の宗派を中心とした主なアクターおよびアクター間の関係は状況とともに変化し、アクターと米

国との関係も時間の経過とともに変化した。各勢力の関係が変化し続けるなかで、米国の「支援」という形での介入は暴力構造をより複雑化させた。この構造の変化が女性を取り巻く環境にいかなる影響を与えたのか、女性の証言を織り交ぜながら検証していく。

第 5、6 章では、女性自身の主体的な動きに注目する。第 5 章は、エリート層の女性を中心に、女性の営みを取り上げる。まず、政治分野への進出として、宗派を中心とした政党による女性の取り込みとその影響を考察する。次に、社会的な営みとして女性支援を掲げる NGO 組織を取り上げる。米国による支援を得ながら活躍する亡命イラク女性を中心とした組織と、財政的独立を保持しながら活動する在住イラク女性を中心とした草の根活動を取り上げ、それぞれの活動の特徴や、現地女性のニーズに応える意味での女性の自立的活動の限界などを考察する。

第 6 章では、第 5 章から視点を変えて、政治の動きから離れた「周縁化」された女性を俎上に乗せる。家を捨て、いわば「逃避」せざるを得ない状況に追い込まれた女性の環境と、その結果として発生している人身取引との関係を、米国による政策とイスラームや部族などイラクの伝統や文化、歴史的背景との結びつきから検証する。すなわち、性的な理由で女性が「名誉殺人」の対象とされている事例を取り上げ、伝統的な文化が残る社会での西洋的価値観による「民主化」政策導入の女性への影響を考察する。

終章では、武力介入者による体制転換および占領統治という分脈の中で女性というアジェンダ設定の持つ意味について、各章での分析および検証に基づいた考察をまとめる。そのうえで、支援と主権のジレンマ――もしくはジレンマの過小評価――および西洋的価値観導入の際の、当該地域の伝統的価値観や歴史的背景の評価の在り方およびその影響について検討する。最後に将来的な「ジェンダーの主流化」の応用方法についてイラクの事例からインプリケーションを提示する。

4.　各章要約：

第 1 章では、紛争と女性との結びつき、および平和構築における「ジェンダーの主流化」についての議論をまとめたうえで、先行研究の課題を提示した。そのうえで、研究の目的を、第 1 に「ジェンダーの主流化」という研究分野に対するイラクの事例報告、第 2 にイラク戦争および占領統治政策に対するジェンダーの視点からの客観的評価、第 3 にイラク戦争後のイラクに関する主に女性を中心とした社会状況の報告という 3 点にまとめた。

第 2 章では、フセイン大統領時代の女性政策およびその間の女性を取り巻く状況を確認し、イラク戦争後の「ジェンダーの主流化」がどのような時代背景のもとに行われたのかを考察した。まず、フセイン大統領の女性観について、彼が行ったスピーチおよび執筆した 5 つの論考を確認した。論考で取り上げられた「女性の解放(emancipation of women)」とは、1968 年にフセイン大統領が発表した「新たな自由社会の建設」が目指した改革の 1 つである。「自由」で「解放」された近代的な女性を目指しつつも、家父長制や宗派・部族の教えを重視する「反革命的な動き」への対策には時間がかかるとし、最終的には男女双

方の抱える不満の軽減を試みながら、双方を動員できるアプローチを作り上げた。他方、女性は、福祉政策が充実されて社会参加が重視され、イラン・イラク戦争や湾岸戦争時には出産をも奨励されるが、経済制裁時には、逆に家に留まることを強いられていた。フセイン大統領の「国家フェミニズム」とは、このように、「女性の国家事業への動員政策」にほかならなかったことを示した。

第 3 章では、米国に焦点をあて、イラク戦争開始前に女性政策が持ち上がった経緯および、その後の女性政策の実施を中心に検証した。米国は戦前、亡命イラク人女性を旧政権の被害者として「解放」することを世界に訴え、戦後は女性を復興の中心に据えることを目指した。しかし、米国による女性支援プログラムはイラク女性の日々のニーズに応えられず先細りし、悪化する治安への対策が優先された。さらに、米国内での国務省、国防総省と CPA のブレマー長官との現状認識の違いや主導権争いなども明らかにした。

第 4 章では、イスラーム主義勢力の宗派による政治闘争を女性支配という点から、米国の介入も含めて検証した。イラク国内でのイスラーム主義勢力の宗派を軸とした政治闘争は暴力化していった。各宗派は女性への戒律を強化し、宗派内の女性を管理する一方で、敵対する宗派の女性に対しては性暴力を含む暴力的な行為で攻撃した。時間の経過とともに敵対する宗派および米国の関係は変化するものの、イラク女性は常に、暴力を受ける対象であり続けたことを明らかにした。

第 5、6 章は、女性の「主体的行動」と題して、女性自身の営みを中心に分析した。第 5 章では、政治的および社会的営みを検証した。政治的な営みでは、イラク統治評議会での女性の象徴的選出および実質的な貢献の不在、また、その後の法整備における議論では、イスラーム主義勢力の保守派女性と世俗的な女性議員の軋轢が明らかになった。さらに社会的動きでは、NGO の動きに注目し、亡命イラク人と国内在住イラク人の組織の動きを比較した。前者は、資金規模は大きいものの国内在住イラク女性への支援が行き届かず、後者は、資金規模が小さく支援が行き届かないという、それぞれの抱えるジレンマが異なることが示された。

第 6 章では、もう一つの女性の「主体的行動」として、女性の家族からの「逃避」を取り上げた。第 5 章では、いわば、「政治の中心」に位置する女性たちの動きを検証したが、本章では、そこから離れた「周縁化」された女性を分析の俎上に乗せた。そこでは、紛争中および紛争後に人身取引が横行するなか、①「名誉殺人」という歴史文化的要因、②女性の性的被害という紛争要因、③米国による新自由主義政策および女性の処遇という占領統治の政策的要因の 3 つが重なり合うことで、多くのイラク女性が三重の苦難に直面したことが明らかになった。具体的には、性にかかわる「名誉殺人」から逃れようとする女性たちが「逃避」したが、米国からも保護されず、結局は人身取引の対象となっているケースが存在していた。

5. まとめ（結果・考察）

イラクの事例では、米国による「ジェンダーの主流化」は失敗であった、という評価を行った。すなわち、戦後イラクでは米国による西洋的制度や価値観の導入が、イラク特有の要因と結びついた結果、女性への暴力を含む予期せぬ事態を招いていた。イラクの要因としては、フセイン政権下で女性の社会進出が進められていたこと、および、イラン・イラク戦争、湾岸戦争、国連の経済制裁を経て社会が疲弊していたことが挙げられる。また、宗教的および部族的な伝統を重んじる保守的な人々にとっては、西洋的な価値観に基づいた社会進出や男女の平等は容易には受け入れられないこと、および、各宗派の対立が、自らの宗派の女性に対しては戒律の厳守を強い、敵対する宗派の女性に対しては攻撃の対象とする可能性があったことが指摘できる。さらには、性的暴行の被害となることがイラクの伝統では「名誉殺人」の対象となり得ることも挙げられる。これらのことから、米国は「ジェンダーの主流化」を実行する際にイラクの要因や歴史的背景を重視してこなかったと言える。また、西洋的価値観に基づいた女性の社会進出や男女の平等を目指して導入される民主化政策が、平和構築の政策策定者の意図に反した結果を招く可能性があるということも、イラクの事例で明らかになった。

これらのことは、すなわち、武力介入者であり事実上の実効支配者となる占領統治者は、当該地の歴史的経緯や文化・社会的環境について必ずしも熟知していないということにほかならない。そのことの軽視が、外部者や占領統治者というだけで単純に抵抗の対象となりやすい立場を、さらに憎悪の対象という立場へと追いやってしまった。さらに、その憎悪は、当該地における占領統治者の協力者や関係者と見なされた無関係の者たちにまで向けられる、ということが提示された。

最後に、「ジェンダーの主流化」という点から考えると、平和構築を行う主体が、①戦争前の当該国の状況および女性の置かれていた地位や女性政策を把握すること、および、②女性の社会進出や意思決定プロセスへの女性参加の持つ社会的意味を慎重に吟味してから実行に移す必要がある、という 2 点が、インプリケーションとして導き出された。換言すれば、イラク戦争とは、事前に十分な検討が行われずに平和構築が行われた場合に何が起こり得るのかを、女性に関して示した事例であることが示された。

6. 主な引用文献・参考文献

Al=Ali, Nadje. (2007). *Iraqi Women: Untold Storis from 1948 to the Present*. London: Zed Books.

Al=Ali, Nadje, Pratt Nicola. (2009). *What Kind of Liberation?* Barkeley and Los Angels: University of California Press.

Al=Jawaheri, HusseinYasmin. (2008). *Women in Iraq: The Gender Impact of International Sanctions*. Boulder: Lynne Reinner.

Al=Khayat, Sana. (1990). *Honour and Shame*. London: Saqi Book.

Al-Marashi, Ibrahim. (2005). *Iraq's Constitutional Debate*. Middle East Review of International Affairs.

Bremer, L.Paul (2006). *My Year in Iraq: The Struggle to Build a Future of Hope*. New York: Simon and Shuster.

Brownmiller, Susan. (1993). *Against our Will: Men, Women, and Rape*. Ballantine Books.

Bush, Sunn Sarah. (2011). "International Politics and the Spread of Quotas for Women in Legislatures." *International Organization*, pp103-137.

Coleman, Isobel. (2006). "Women, Islam, and the New Iraq." *Foreign Affairs*, pp24-38.

Collier, Paul, V.L. Elliot, Havard Hegre, Anke Hoeffler, Marta Reynal-Querol, and Nicholas Sambanis V.L. (2003). *Breaking the Conflict Trap: Civil War and Development Policy*. New York: World Bank.

Congressional Research Service(CRS).(2003). "Iraq's Economy: Past, Present, Future."

——. (2006). "U.S. Assistance to Women in Afganistan and Iraq: Challenge and Issues for Congress."

Deeb, Sara. (2004). "Iraqi Women Deal With Mixed Legacy of Equality and Repression(2/1)." *Daily News*.

Dodge, Toby. (2003). *Inventing Iraq: The Failure of Nation-Building and History Denied*. New York: Columbia University Press.

Fontan, Victoria. (2009). *Voices From Post-Saddam Iraq : Living with Terrorism, Insurgency and New Forms of Tyranny*. Westport: Praeger Security International.

Galtung, Johan. (2000). *Searching for Peace: The Road to Transcend*. London: Pluto Press.

Ghatts, Kim. (2003). "Iraqi Women Struggle to be Heard." (8/18) *BBC*.

Gizelis, Theodora - Ismene. (2013). "Gender Equality and Postconflict Reconstruction: What Do We Need to Know in Order to Make Gender Mainstreaming Work?." International Interactions.

Graham-Brown, Sarah. (1999). *Sanctioning Saddam*. Washington D.C.: I.B.Tauris.

Heartland Alliance. (2014). "Iraq 'a hotbed' of Human trafficking." http://www.al-monitor.com/pulse/originals/2014/01/iraq-human-trafficking-absense-law.html

Helie, Anissa. (2005) "The U.S. Occupation and Rising Religious Extremism: The Double Threat to Women in Iraq." (6/24) Women's World.

Hussein, Saddam. (2010). *Social and Foreign Affairs in Iraq*. (Kishtainy Khalid

translated) New York: Routledge.

International Displacement Organization. (2016). "Global Report on International Displacement." http://www.internal-displacement.org/assets/publications/2016/2016-global-report-internal-displacement-IDMC.pdf

Iraq-Ministry of Planning CSO. (2012). "Iraqi Women Integrated Social and Health Survey Summary Report. Iraqi Ministry of Planning."

Krook, Mona. (2006). "Reforming Representation: The Diffusion of Candidate Gender Quotas Worldwide." *Politics and Gender*, 2(3), pp303-327.

Leatherman. (2011). *Sexual Violence and Armed Conflict*. Polity.

Marr, Phebe. (2012). *The Modern History of Iraq*. Goulder: Westview Press.

Medical Aid For Iraq. (1994). "Report on deliverly of medical supplies to paediatic hospitals in Iraq, October."

Mojab, Shahrzad. (2001). *Women of a Non-state Nation: The Kurds*. CA: Mazda.

Monitoring of Human Rights in Iraq Network. (2005). "Second Periodic Report of Human Rights in Iraq(11/20)."

Moser ,Caroline & Fiona Clark. (2001). *Victims, perpetrators or actors? Gender, armed conflict and political violence*. London: Zed Books.

Naraghi-Anderlini, Sanam. (2001). *Men, peace and security: A policy audit. From the Beijin platform for action to UN Security Council Resolution 1325 and beyond*. . London: International Alert.

NCA . (2010). "Trafficking Sexual Exploitation and Prostitution of Women and Girls in Iraq." Norweigian Church Aid.

New York Times. (2006). "How Iraq Police Reform Became Casuality of War(5/22)."

——. (2011). "After Nearly 9 Years of War, Too Many Widows(11/25)." http://www.nytimes.com/2011/11/25/world/middleeast/iraqi-widows-numbers-have-grown-but-aid-lags.html (2017/5/13 reviewed)

Noris, Pippa. (2007). "Opening the door: Women leaders and constitution-building in Iraq an Afganistan." Barbara Kellerman & Rhode Deborah (ed.), *The State of Play and Strategies for Change.* New York: Jassey Bass, pp197-226.

NPR-All Things Considered. (2014). "Iraq Yazidis Appeal For Help in Finding Their Missing Women." http://eds.b.ebschohost.com/eds/detail/detail?vid/=32sid=f40569f-0ede-4faa-a39a-803802bdc50%40ses (2017/5/14 reviewed)

Office of International Women's Issues. (2003). "Iraqi Womem Under Saddam's Regime: A Population Silenced(3/20)." www.state.gov/wi/rls/18877.htm.

Office of the Senior Coordinator for International Womrn's Issues . (2005). "U.S.

Commitment to Women in Iraq(2/22)." http://www.state.gov/wi/rls/42512.htm

Omar, Manal. (2010). *Barefoot in Baghdad: A Story of Identity- My Own and What It Means To Be a Woman in Caos.* Naperville: Sourcebooks Inc.

Omar, Suha. (1994). "Women: Hounor, Shame and Dictatorship." Fan Hazelton(ed.) *Iraq Since the Gulf War, Prospect for Democracy.* London: Zed Books Ltd.

Onyinechukwu, Onyido. (2011). "The Failure of Policies Supporting Gender Mainstreaming in Post-Conflict Peacebuilding." Women's Policy Journal of Harvard.

O'reilly, Maria. (2012). "Mascular Interventionism." International Feminist Journal o Politics, 14(4), pp529-548.

Organization of Women's Freedom in Iraq(OWFI). (2010). "Prostitution and trafficking of Women and girls in Iraq(3/5)." http://peace-women.org/assets/file/ Resources /NGO/dispvaw_prostitutontraffickingiraqwomen_owfi_march2010.pdf (2017/5/15 reviewed)

Osborn, Mark. (2005). "Iraqi Union Leader Murdered 'Resistance' Targets." Trade Unions, Women, Lesbians and Gay Men. Workers' Liberty(1/12).

Riverbend. (2006). *Baghdad Burning II: More Girl Blog fromo Iraq*. New York: Feminist Press.

Riverbend. (2005). *Baghdad Burning: Girl Blog from Iraq*. New York: Feminist Press.

Salbioff, Zainab. (2003). "After the War: Women in Iraq(8/8). *Off our Backs*, pp8-11.

Sengputa, Kim. (2005a). "New Iraqi Constitution Must Follow Islam on Women's Rights(7/21)," *Independent*.

Stansfield, Gareth. (2007). *Iraq--People, History, Politics*. Malden: Polity.

Susskind, Yifat. (2007). *Proising Democracy, Imposing Theocracy: Gender-Based Violence and the US War on Iraq*. New York: MADRE(An International Women's Human Rights Organization).

Washington Post. (2005). "Full Texst of Iraqi Cinstitution." (10/12) http://www. washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2005/10/12/AR2005101201450.html

Women for Women International. (2005). "Windows of Opportuinty."

Zangana, Hifa. (2009). *An Iraqi Women's Account of War and Resistance.* New York: Seven Stories Press.

Zeynep, Kaya. (2016). "Women, peace and security in Iraq : Iraq's National Action Plan to implement Resolution1325." (8/3) http://eprints.lse.ac.uk/67347/

アル＝アリー, ナディア. (2012). 「イラク人女性とジェンダー関係――差異の再定義」. ザヒア・スマイール・サルヒー(編) 『中東・北アフリカにおけるジェンダー――イスラーム社会のダイナミズムと多様性』(鷹木恵子他訳). 明石書店.

カヤット, サナ・エル. (1994). 『アラブの女―イラク女性の素顔』（鳥居千代香訳）. 図書出版社.
ライス, コンドリーザ. (2013 年). 『ライス回顧録――ホワイトハウス　激動の 2920 日』. (福井昌子他訳). 集英社.
ドッジ, トビー. (2014). 『イラク戦争は民主主義をもたらしたのか』(山岡由美訳). みすず書房.
トリップ, チャールズ. (2004). 『イラクの歴史』(大野元裕訳). 明石書店.
ジョージ, パッカー. (2008). 『イラク戦争のアメリカ』(豊田英子訳). みすず書房.
稲田十一、吉田鈴香、伊勢崎賢治. (2003). 『紛争から平和構築へ』. 論創社.
円城由美子. (2015). 「フセイン政権後に見られる女性の人身取引」 アジア・アフリカ研究, 55(3), pp69-88.
川眞田嘉壽子. (2012). 「安全保障.理事会 1325 の実施と国内行動計画」 国際女性.
酒井啓子. (2007). 「イラク政治におけるジェンダー--国家、革命、イスラーム（周縁からの国際政治)」『国際政治 』(149). 国際政治学会, pp30-45.
――. (2003). 『フセイン・イラク政権の支配構造』 岩波書店.
大門毅. (2007). 『平和構築論』 勁草書房.
竹中千春. (2010). 「国際政治のジェンダー・ダイナミックスー戦争・民主化・女性解放ー」『国際政治』(161), 国際政治学会, pp11-25.
山尾大. (2014). 「イラク：民主化の蹉跌と宗派対立という亡霊」. 青山博之(編)『「アラブの心臓」に何が起きているのか』. 岩波書店.
――. (2013).「イラク覚醒評議会と国家形成」. 佐藤章(編)『紛争と国家形成――アフリカ・中東からの視覚』アジア経済研究所, pp 101-136.